

白藍塾オリジナル

2025年度 入試小論文分析&解答のヒント

2025年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・環境情報学部

今年度は、近代科学の仮説演繹法について説明した課題文を読んで2つの設問に答えるという、小論文としてかなりオーソドックスな形式になっている。だが、2つの設問はどちらもかなりややこしい。

問1では、課題文をAIで要約した3つの文章を示した上で、(1)例文を除いた2つにタイトルをつける、(2)要約として最も適切な文章を選んで理由を書く、という2つの作業が求められている。

(1)は、見出しをつける感覚で考えるとよい。ここで時間をかける必要はない。

(2)は、課題文の全文要約としては、【1】を選ぶのが妥当。課題文は、まず演繹法と帰納法のそれぞれの特徴を説明した上で、仮説演繹法の意義を述べ、最後にそれが限界とともに「新しい経験」へと開かれていることを論じている。【0】にはその最後の部分((課題文のメインテーマ)への言及がないし、【2】は演繹法と帰納法の特徴についての説明がない。その点、【1】は課題文の重要なポイントを過不足なく押さえていると言える。

2部構成のA型を使って、そうしたことを字数に合わせてまとめるとよい。

問2では、まず(1)で、現代の課題を解決するための糸口(仮説)を見出し、それを実践するための「取り組み」や「仕組み」を考えることが求められている。設問の内容から言って、個人ではなく、社会全体としての「取り組み」や「仕組み」が問題になっているはずだ。

漠然とした問いなのでかなり難しいが、設問の「『ひらめく』ための素材を提供させる取り組み」という箇所が参考になる。一例として、生成AIなどのIT技術を活用してビッグデータの解析やブレインストーミングをしたり、あるいは関係者や一般市民からタウンミーティングや自治体のホームページなどで意見を募ったり、といったことが考えられる。

また、設問に「『仮説演繹法』の役割も含め～」とあるが、仮説を見出すだけでなく、それを実践(実践)によって検証する必要がある。仮説をすばやく実践に移行できるように、「ガイドラインを作成する」「NPOなどを通じて行政と市民の横断的ネットワークを構築する」等が考えられるだろう。

(2)では、(1)の考えをどのように実現するか、特定の課題に則して説明することが求められている。これについては、最初に(1)とセットで考えておく必要がある。課題の内容は、実際に今問題となっている事柄であればなんでもよいが、「少子高齢化」「都市と地方の格差」「経済の低迷」

といった大きすぎる課題を取り上げてもうまくいかないだろう。「地域の活性化」「高齢者の孤立」「児童虐待」「防災」といった、地域レベルでの解決が可能な課題を取り上げると、書きやすいはずだ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>